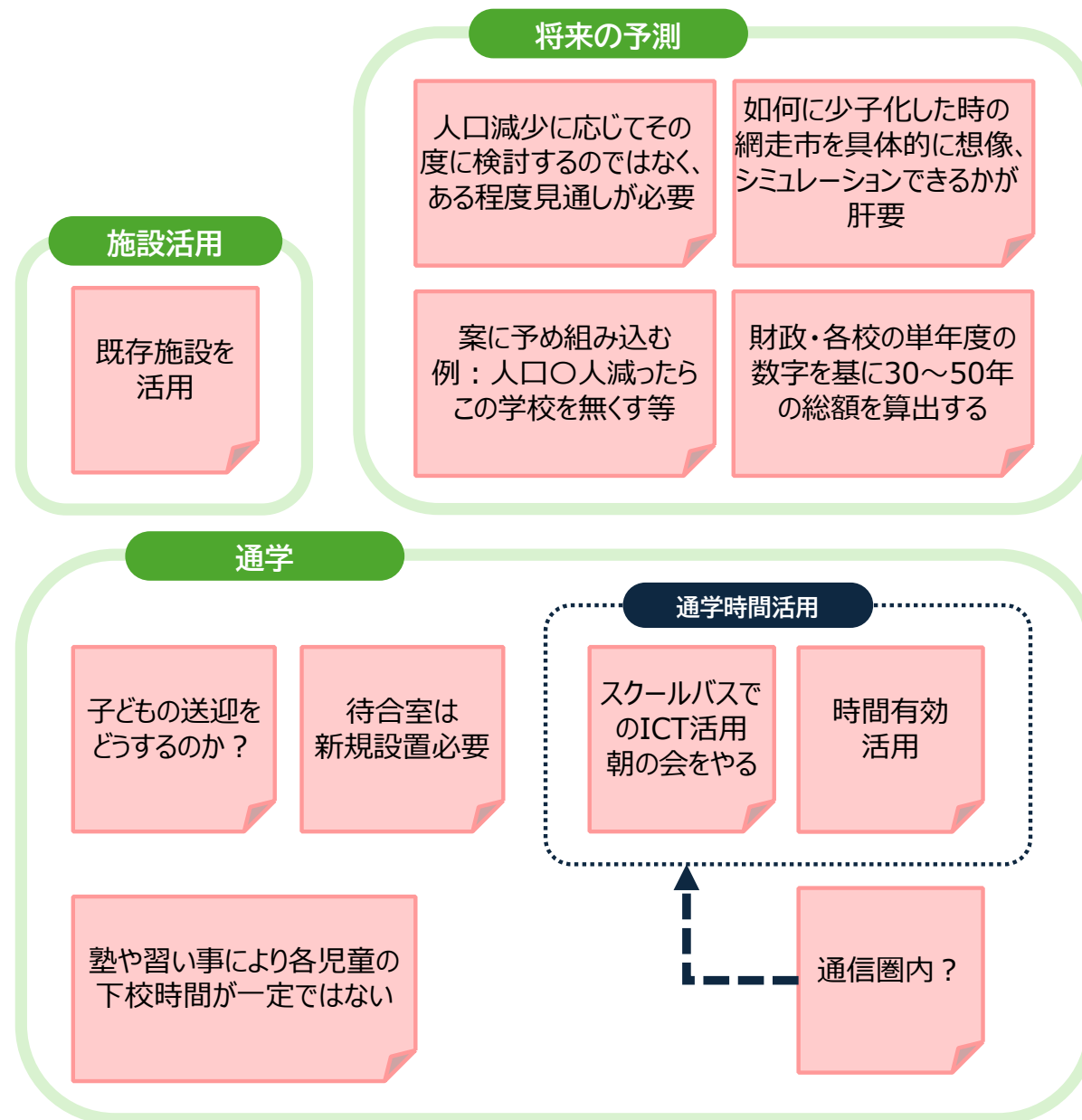


■ 1班 課題4



■ 1班 課題5

地域との関わり

各校・地域での
伝統文化の
継承は？

町の小学校の地域と
のつながり、地域活動

通学

保護者による
自動車送迎が
常態化している

駐車場や
交通アクセス

学校を都市の核の一つと
位置付け、文化拠点・防
災拠点・交通拠点を形成

廃校後の活用

現体育館の
廃校後利用

財政負担を考えて閉校
後の活用の目的を先に
考えるべきか？

ラグビーやサッカー
の合宿施設

廃校利用は原則しない
(必要ならその都度検討する)

宿泊施設

維持管理

防災機能としてそ
のままだと施設が
劣化してしまう

会議をあちこちで行う
(夏はキャンプ場として活用)

網走マラソンや流氷観光時
ホテルが足りない
(高額)

地域の文化、スポーツ、
高齢者、地域防災の拠点

■ 1班 課題6

個人への配慮

カウンセラーの
増員

子どもだから
大丈夫

個人への配慮

環境の変化に対応して
いくための対策は？

児童の個性に応じた対応が
できるシステムを用意したい
(在宅、オンラインなど)

交流の充実

事前交流は少
しずつ進める

合同遠足、修学旅行、
課外授業から始めて
合同運動会などへ

課題

PTA縮小
加入は任意といい
ながらほぼ全員

学校生活と学習計画等
の異なるものをいつのタイ
ミングですり合わせるのか

■ 2班 課題4

課題

人口減少

少子化

財政破綻

教育

小中一貫
教育定着化

小中一貫
教育を推進

通学時間の
問題

教職員以外の
教員体制の確保

学校の方向性

通学時間を考えると市街地
と郊外の方が良い

選択制通学
市街地と郊外

学校の配置が
決まらない

市街地と郊外の拠点
を組み合わせたい

市街地に義務
教育学校

郊外（例：東西）に
小規模特認校を設置
（希望になり、市街地に
通うことができる）

施設活用

既存施設の
改修・再利用

必要な機能

機能の
集約化

学校施設の近くに児童
クラブがあった方が良い
（同じ場所ならなお良し）

通学

学校を集約す
るため、スкуль
ルバスが必要

郊外から市街地
への移動はかな
りの負担となる。

費用

新たな施設の方が
使いやすい施設に
なるが、費用が高い

メリットとデメリット
の具体化

郊外の小中学生から未就
学児までの世帯に小規模
校または市街地の学校が
良いか等のアンケートを行う

■ 2班 課題5

廃校後の活用

既存施設を活用する
(地域の活力には子どもの活力が必要)

統合後、学校がなくなったとしてもコミュニティの中核として施設は残した方が良い

建物を残す？

→ 学校が地域の中心として機能している場合は残した方が活力のある地域になる

学校の方向性

特認校を西と東に1校ずつ

郊外校
地域拠点

防災

どの場所でも
防災を大切にしたい

必要な機能

学校配置が変わっても子どもたちの居場所は欲しい

地域との関わり

地域と子どもたちの関わりはとても大切だと思うため、残したい

学校関連の地域活動とは？
文化・伝統とは？

情報

各学校の現在使っている役割や機能を知りたい

■ 2班 課題6

情報

事前交流
西小と中央小は全学年
で実施しているようだが、
内容を知りたい

交流の充実

事前交流や合同学習
も大切だと思うが、
少しずつ進めたい

個人への配慮

多い人数に戸惑いを感じる
子もいると思うため、そういう
子の行きやすい場もつくりたい

仕組みづくり

クラス間・学校間の移動・転校
をスムーズにできる仕組み

父母や生徒の目安箱的
なものの設置
(ヘルプを伝えやすい仕組み)

■ 3班 課題4

情報

候補地

いま候補地は
あるのか

どこに
建てるのか

情報が少ない
学校ごとの事情が分からない
・登下校、送迎の事情など
・児童クラブ、児童館

登下校・送迎
バスなど実現可能か

学校の方向性

・新しく建てるのか
・既存の学校を使うのか

郊外校は
そのまま

小中一貫教育を推進
したうえで市街地に教
育機能を集約する

比較的新しい
学校への集約

市内は集約して
新しい校舎を

新たな施設
整備は必要

財政面

市としていく
らせるのか

通学

集約する場合の通学方法
・既存施設の活用
・小中一貫校で
スクールバス支援

児童館の集約
コミセンの利用

■ 3班 課題5

情報

それぞれの学校が地域
とどのような関わりを
しているのかを知りたい

必要な機能

防災機能

郊外校の児童館
(託児所)
(連休や長期休み)

体育館はクラブ
活動に重要

コミセン
+
児童館

学校の方向性

郊外校は地域の中心
学校があるから子育て
世代がいる

なくなると
地域衰退

廃校後の活用

合宿での
宿泊スペース

サークル活動
用スペース

図書館の
分館

貸オフィス

不登校の
支援スペース

児童館として
の活用

チャレンジ
スペース
ショップ

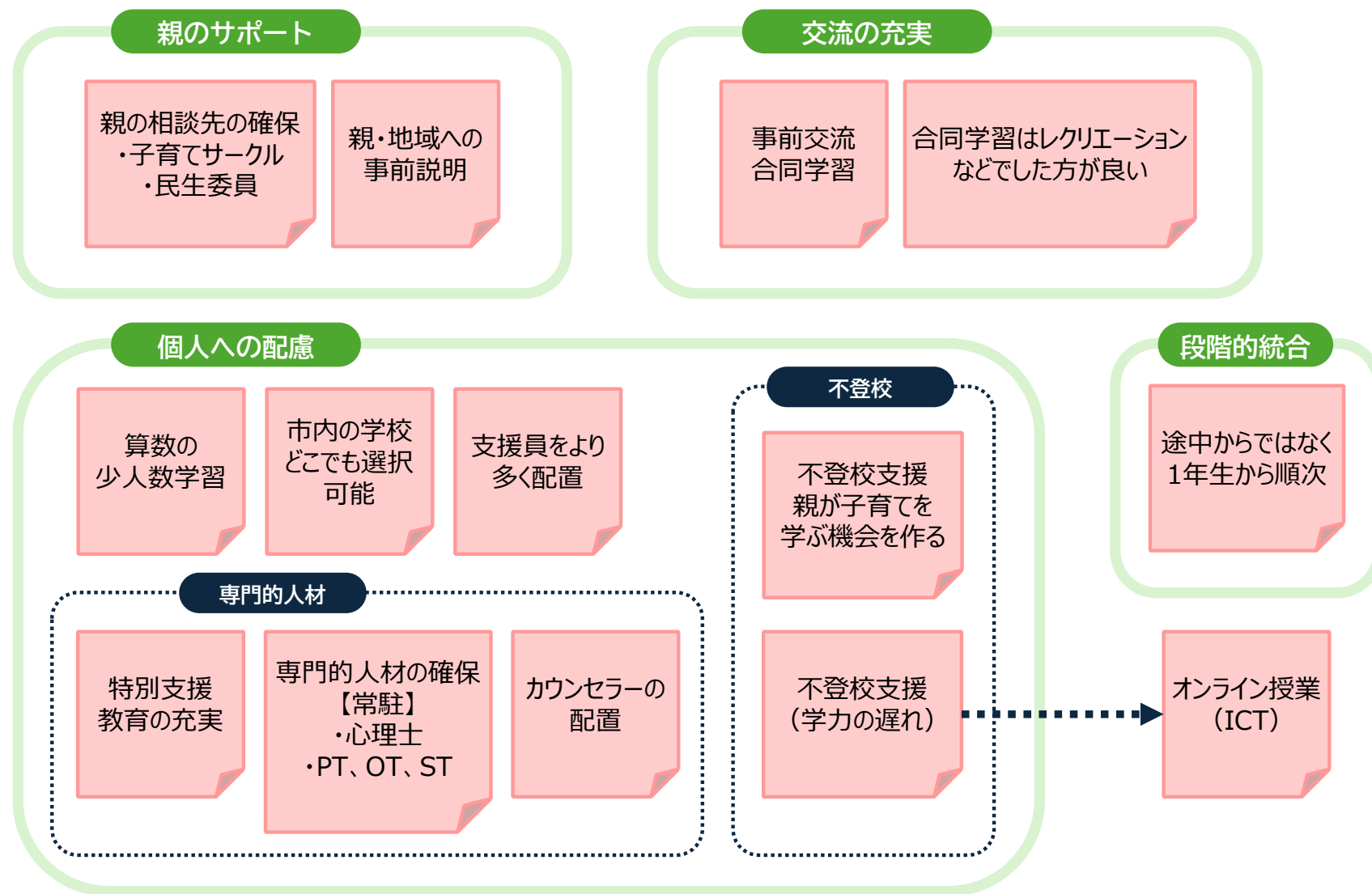
移住者
トライアル
スペース

廃校時の対応

廃校後の
管理先選定

校舎活用は
具体的な案が
まとまってから

■ 3班 課題6



■ 4班 課題4

情報

統合しない
場合のコスト
比較

学校の方向性

市街地への集約
ではなく、選択肢
があった方が良い

将来の子どもたちが困ら
ないように現状でできる
ことを進めるしかない

通学

スクールバスの関係から
市内と郊外を一緒にす
るのは難しい

交通手段は
1番重要

市内と郊外では
通学時間の不平
等が大きい

保護者の
負担軽減

施設活用

既存施設を
十分に活用

学校現場から
の意見・ビジョン

■ 4班 課題5

地域との関わり

特色ある教育
プログラムの実施
地域との連携

伝統文化の継承
は学校だけで解決
するのは難しい

地域の中心的役割
防災・文化
伝統芸能等

交流の充実

保育園の運動会の共催
白鳥台の場合
1小学校
2保育園

必要な機能

高齢者が活用
できる施設

生涯教育を
担う施設

放課後、休日に子どもが
集える場としての機能を
持たせる

■ 4班 課題6

個人への配慮

専門的人材

特別支援教育
の充実

一番支援が
必要な子ども
が安心して通
える学校

教育

教員数の
増員

スクールソーシャル
ワーカーの増員

最初の5,6年
の問題

■ 5班 課題4

学校の方向性

市街地・郊外
分けて考える

市街地は集約
郊外はそのまま

郊外の学校は
存続

郊外はそのまま
時間や早退等の
対応が難しい

市街地は小学生の通学
負担に配慮し、小学校は
残すが、中学校を統合

小中学校は
分けるべき

小中学校は
別が望ましい

中高一貫
教育の推進

どんな家庭にも
困ることのない通
える体制とは？

理想と財政の
バランス

通学

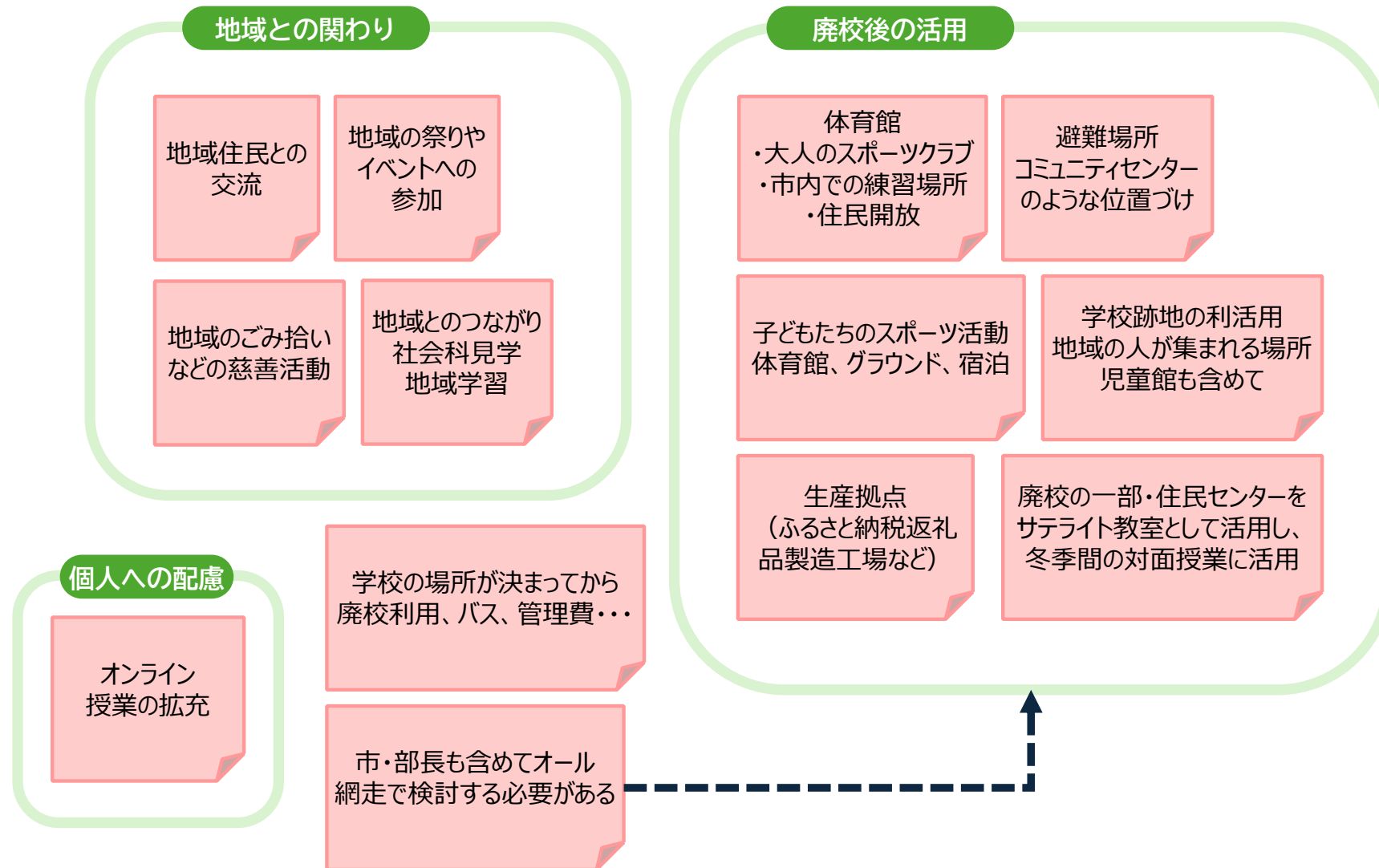
市街地
統合した場合、登校
場所は変えず、バスの
発着点として利用

通学支援
小学生：4km
中学生：5km
毎日は大変であるため、
バスは必須

施設活用

既存施設活用
小規模改修をして
利用

■ 5班 課題5



■ 5班 課題6

個人への配慮

子どもにとって
わくわく感

専門的人材

特別支援
不登校支援
丁寧に

交流の充実

地域化
スポーツクラブ
合同練習
合同で大会

子どもたちの
交流を通年
増やしていく